

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	情報	情報応用	進学	2	熊谷
教科書	なし				
副教材	なし				
評価基準	観点① 知識・技能 情報技術を適切に理解し、コンピュータを操作することができるようになることを目指す。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 課題に対してどのように解決策を見出して、実際に解決できるだけの判断力等を養う				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業を真摯に取り組む姿勢を取る				
考査・評価方法	1 学期はICTプロフィシエンシー検定の受験を定期考査とする				
	2 学期はワードとエクセルの実技試験が学期末に行う				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	学期末の試験と授業内の態度を総合的に判断する				
図書資料の活用	大学でレポートやデータを整理する際に必要とされるスキルを身に着け、大学入試の際に優遇される資格であるICTプロフィシエンシー検定の合格を目指す。				

学期	月	教材	内容
1	4	オリエンテーション	一般問題の対策授業
	5	一般問題対策授業	
	6	ICTプロフィシエンシー検定模擬試験	
2		ICTプロフィシエンシー検定試験を受験する	模擬試験を実施
	9	会社見学	
	10	ワード授業	
3		エクセル授業	ワードの対策授業
	11	ICTプロフィシエンシー検定試験を受験する	
			エクセルの対策授業

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	保健体育	進路別選択	進学	2	松岡 圭一
教科書	基礎から学ぶスポーツ概論 / 現代高等保健体育教科書				
副教材	現代高等保健体育ノート				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書・副教材を正確に理解し、答えることができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 観点①で習得したことを元にグループ内活動やその他取り組みにおいて、生かすことができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業内活動において積極的に発言することができる。				
考査・評価方法	各学期100段階で表記をする 授業ごとに課題を科し、評価をする。授業ごとに取り組み等も評価対象とする。				
	観点① 各授業ごとの課題を評価する。 観点② 授業ごとにおける課題についての提出状況を評価対象とする。 観点③ 授業内での取り組みなどをもとに評価をつける。				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	保健体育教師やスポーツ指導者(員)においての基礎知識や体育の歴史を主に学習するとともに、スポーツという幅広い分野の中で興味関心を持つだけでなく問題解決をできるような学びの場とする。 高校生という段階をふまえ、指導範囲を適切に設定し、段階的な授業構成とする。実技授業を行う際は、危険を避ける取り組みを十分に行う また、外部に複数回講義を依頼し、体育やスポーツを軸としたキャリア教育を考えた授業を行う				
図書資料の活用	各講師より提示される資料を使用				

学期	月	教材	内容
1	4	基礎から学ぶスポーツ概論 現代高等保健体育教科書 現代高等保健体育ノート	オリエンテーション メンタルとスポーツ 食と健康 スポーツと科学 政治と金 オリンピック 海外と日本 生活習慣と健康(小林) スポーツドクター スポーツと教育
	5		
	6		
2	7	基礎から学ぶスポーツ概論 現代高等保健体育教科書 現代高等保健体育ノート	
	9		オリエンテーション 論文の書き方とテーマの決め方 測定調査の仕方 測定調査の仕方 グループ研究 グループ研究 発表 発表 自由課題設定 自由課題調査研究 自由課題調査研究
	10		
	11		
3	12		発表 発表

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	外国語	中国語	進学	2	高橋
教科書	山口直人ほか2023.『キャンパスで始める中国語』白帝社				
副教材	必要に応じて資料を配付します				
評価基準	観点① 知識・技能 中国語の発音の習得と基本的な文法事項の習得				
	観点② 思考力・判断力・表現力 習得した知識を活用して中国語で表現をする				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 家庭での発音の復習 学習した文法事項をもとに、積極的に語彙をつけ、自分の言いたいことを一つでも多く言				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	中国語は中華人民共和国のほか台湾、香港、マカオをはじめとする中華圏だけでなく、カンボジアやインドネシアなど広く東南アジアで使用される言語の一つです。また、世界各地にある中華街でも使用される言語です。また、多くのインバウンドは中華系の人で日本でも英語についでしばしば聞かれる外国語となりました。 これだけ多くの地域で使用される言語なので一言で中国語といっても多くの方言があります。例えば、日本でよく知られているジャッキーチェンが普段話しているのは広東語と いて北京の人は聞きとることができません。 この授業では中国の標準語である普通話（台湾では華語といいます）の発音と簡単な文法と挨拶表現を勉強し、中国語に触れることを目的とします。				
図書資料の活用	必要に応じてその都度紹介をします。				

学期	月	教材	内容
1	4	発音編 声調 単母音	四声 単母音 a o e yi wu yu
	5	子音 複母音 -nや-ngのつく母音	無気音と有気音 b p m f d t n l 他 ai ei ao ou an ang en eng他
	6	第1課 第2課 確認のための授業内試験	人称代名詞 動詞“是” 疑問文 名前の言い方 指示代名詞 省略疑問文 連体修飾語は
2	9	第3課 第4課	動詞述語文 疑問詞疑問文 時間を表す名詞ほか 形容詞述語文 反復疑問文 場所を表す指示代名詞ほか
	10	第5課 第6課 第7課	量詞 “几”と“多少” 選択疑問文 完了の“了” 所在を表す表現 名詞述語文 経験を表す“过” 助動詞“想”ほか
	11	第8課 第9課 確認のための授業内試験	前置詞 時点の表現 時間量の表現 主述述語文 変化を表す“了”ほか
3			

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地歴	世界史	進学文系	2	西尾
教科書	【世探704】詳説世界史 山川出版				
副教材	山川 詳説世界史図録 第5版（世探704準拠） 世界史探究 詳説世界史 授業用 整理ノート （世探704準拠）				
評価基準	観点① 知識・技能 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	近世以降の世界史の基礎・基本的な事項を学ぶ。 また、暗記ではなく、歴史に関する知識を深め、異なる地域を比較・関連付けて考察する力をつける。				
図書資料の活用	探究レポート課題や発表で参考文献として図書室にある書籍を活用する。				

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 副教材	1 アジア交易世界の興隆 1 オスマン帝国とサファヴィー朝 2 ムガル帝国の興隆 3 新しい国際秩序の形成 1 冷戦の展開 2 第三世界の台頭とキューバ危機
	5		
	6		
	7		
2	10	教科書 副教材	3 冷戦体制の動揺 1 産業構造の変容 2 冷戦の終結 3 今日の世界 4 現代文明の諸相
	11		
	12		
3	冬講習 3 学期 特別 授業		2 列強の世界分割と列強体制の二分化 3 アジア諸国の変革と民族運動 1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ地域の民族運動

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	受験国語	進学	2	堂所
教科書	なし				
副教材	LT現代文、LT古文、LT古文1文法基本ノート（準拠）				
授業のねらい	問題集を使用して演習形式の授業を展開し、大学入学共通テストを意識しながら読解力・実践力を身につけることを目標とする。				
授業の概要と進め方	2時間続きであるため、基本的には以下のように進める。 【1時間目】問題演習 問題を解き、解説 【2時間目】1時間目の続き、語句の確認				
学習上の留意点	●現代文 「読解のキーワード」を参考にして、評論の重要語を学び、問題を解かせる。 分からない単語については調べさせて、単語の意味の理解を深める。 ●古文 用言・助動詞・助詞の復習をしながら問題を解かせる。 生徒の苦手なところを確認して進めていく。				
学習上の留意点	授業内テストを行う 1学期 中間・期末 2学期 中間・期末				
図書資料の活用	適宜授業内で紹介する。				

学期	月	教材	内容
1	4	ガイダンス	中間考査
		演習	
		現代文 ①～④	
	5	古文 ①～④	
	6	演習	期末考査
		現代文 ⑤～⑩	
		古文 ⑤～⑩	
	7		
2	9	演習	中間考査
		現代文 ⑪～⑮	
		古文 ⑪～⑮	
	10		
	11	演習	期末考査
		現代文 ⑯～⑳	
		古文 ⑯～⑳	
	12		
3			

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地歴	地理	進路別	2	野々村
教科書	『見る・知る・学ぶ 世界遺産でぐぐっとわかる地理』（JTBパブリッシング）				
副教材	『新詳 地理探究』（帝国書院）				
評価基準	観点① 知識・技能 世界遺産の名称・場所を把握する。 世界遺産の学習を通して、地理に関する用語を把握する。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 世界遺産がいかなる過程を経て、形成・建造されたものか理解し、表現する。 地理の学習を通して、地理的事象のメカニズムを理解し、表現する。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業では取り扱わない世界遺産を、主体的に調べ、成果をプレゼンテーションする。 次に世界遺産に登録されるべき場所等を選び、プレゼンテーションする。				
考査・評価方法	授業内で実施するテスト、授業内プレゼンテーション等の内容を総合的に評価。				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	<ねらい> 外国の世界遺産を学習することを通して、グローバル人材としての教養を養う。 国内の世界遺産を学習することを通して、我が国の国土や歴史に対する愛情を養い、また他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚を深める。 <進め方> 板書を中心とした授業を展開するが、後半は生徒によるプレゼンテーションを予定。 <学習> 「地理総合」の学習内容を復習すること。				
図書資料の活用	新聞や図書を授業内で紹介する。				

学期	月	教材	内容
1	4	教科書	・世界遺産とは ・世界遺産と時差
	5		
	6		・世界遺産と自然地理 ・第一回プレゼンテーション
2	7		
	9		・世界遺産と人文地理
	10		
3	11		・世界遺産と環境問題
	12		第二回プレゼンテーション
	1		
3	2		
	3		

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	家庭	家庭	進学	2	矢部
教科書	自主教材				
副教材	家庭科55デジタル+資料集+食品図鑑+デジタルコンテンツ				
評価基準	観点① 知識・技能 保育分野では、①子どもの人間形成のために必要な親の役割と責任を理解させる。 ②子どもの成長・発達にとってふさわしい家庭や社会環境の整備の大切さをきづかせる。 食物分野では、自らの食生活について多面的に考える力を養えるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 保育分野では、子育て支援のニーズとその社会的重要性を理解させる。 食物分野では、これまでに習得した知識をいかし、献立が作成できるようにする。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 レポート作成、絵本づくり、栄養価計算、ロールプレイング等グループ活動や個人の発表を通し、主体的に取り組む態度を身につけさせる。				
考査・評価方法	授業時に実施する ①作品づくり（紙芝居、児童文化財）②保育園実習または児童館実習 ③レポート作成 ④実技テスト ⑤献立作成 ⑥オリジナルレシピの作成及び実習				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	家庭科の授業では、教科書や資料を読んで「知識・技能」を得るだけでなく、その「知識・技能」が実際に生活でいかせるよう、実習や実験によって体験したり、他者との話し合いによって考えを共有し合い、自分で問題を見つけ調べたりすることで、解決していく力をつけることをねらいとする。				
図書資料の活用	紙芝居作成、オリジナルレシピ作成等で活用予定				

学期	月	教材	内容
1	4	自主教材	事例研究やロールプレイングなどを通して子どもに対する親の働きかけを学ぶ。
	5	校外実習にむけて	青桐幼稚園実習または児童館実習にむけて児童文化財の作成
	6	校外授業	青桐幼稚園または児童館実習
	7	自主教材	実習後のレポート作成、提出
2	9	自主教材	栄養素の種類と機能を理解し、献立を作成させる。
	10	自主教材	基本切り、飾り切りの練習とテスト
	11	自主教材	配膳やマナーについて
	12	自主教材	行事食について レポート作成
3			

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地理歴史	日本史	進路別	2	脇本
教科書	山川出版『詳説 日本史探究』				
副教材	帝国書院『図説 日本史通覧』				
評価基準	観点① 知識・技能				
	基本的な用語を理解し、それがどのような役割を持っているのかを把握できる				
	観点② 思考力・判断力・表現力				
	人々の動きや感情、経済活動等を把握し、事象の原因が何か、そしてその結果が更なる原因となっていることを把握できている				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度				
評価	深く広く学ぶためのワークに積極的に取り組み、主体的に社会を知ろうとする。				
	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書・ワークシート・史料集				
	観点② 正誤判定問題・史料問題・論述問題				
	観点③ 普段の授業姿勢・提出物・長期休みの課題・小テスト				
授業のねらい・進め方・注意点	(ねらい)事象を経済的観点、政治的観点等様々な視点からみられるようにする。また、人々の感情が根底にあることを理解する。 (注意点)単なる一問一答とならないように用語同士のつながりを説明していく。また、歴史を縦と横で理解できるようにする。				
図書資料の活用	授業中に図書資料を紹介する 長期休暇中に図書資料を活用した課題を課す				

学期	月	教材	内容
1	4月	教科書・史料集・ワークシート	占領と改革 中間テスト 冷戦の開始と講和 55年体制 期末テスト
	5月		
	6月		
	7月		
2	9月	教科書・史料集・ワークシート	経済復興から高度成長へ 中間テスト 経済大国への道 冷戦の終結と日本社会の変容 期末テスト
	10月		
	11月		
3	12月	教科書・史料集・ワークシート	

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	Active English	進学	2	Morley・増村
教科書	なし				
副教材	自主教材				
授業のねらい	・プレゼンテーションをすることを通して、伝わる英語力の養成をする。 ・様々なトピックについて考え、原稿を書き、伝えることで、将来に備える。 ・クラス内で互いに学び合う。ペアワークで協力して発表を行う技術も磨く。				
授業の進め方概要と	・トピックについての表現を学び、語彙や表現等を調べ、原稿を作成する。 ・授業でクラスの前で発表する。 ・プレゼンテーションを聴き、質問をする。 ・進んで発表やプレゼンテーションに臨む。				
テスト	授業内プレゼンテーション ・プレゼンテーション毎に、流暢さ・一貫性・語彙及び文法の正確さ・発音・話すスピード・プレゼンテーションの技術等を評価する。 ・トピックに関するプレゼンテーションの内容を評価する。				
図書資料の活用	図書館内にある洋書を読むことで、自然な英語の表現を学ぶこともできる。				
備考	前向きにそして主体的に授業に参加し、プレゼンテーションの原稿提出の期限を守ること。また、プレゼンテーションの練習もしっかりと行い、プレゼンテーション力を磨くこと。				

学期	月	教材	内容	
1	4	• Self-introduction • Name • Weaknesses/Mistakes/Strengths	• ペアワーク・クラスで発表 • 発表準備・プレゼンテーション • 発表準備・プレゼンテーション	
	5	• My 10-year plan • Which place do you recommend the most to people from different countries or your friends? • What are the benefits of studying English?	• 発表準備・プレゼンテーション • 発表準備・プレゼンテーション • 発表準備・プレゼンテーション	
	6	• What are important skills to have good relationships with other people? • What is your hobby?	• 発表準備・プレゼンテーション • 発表準備・プレゼンテーション	
	7	• Which country do you want to go to?	• 発表準備・プレゼンテーション	
	※進度などによりトピック等は 変更することあり			
	2	9	• Current technology • Current domestic/global problems and your opinions on how to solve them • Show & tell (Why do you like it?)	• 発表準備・プレゼンテーション • 発表準備・プレゼンテーション • 発表準備・プレゼンテーション
		10	• Film (What did you learn from it?) • The advantages and disadvantages of social media on society • The significance of cultural diversity	• 発表準備・プレゼンテーション • 発表準備・プレゼンテーション • 発表準備・プレゼンテーション
11		• What is the role of teamwork in life (e.g., family, school, and sports)? • Work-life balance	• 発表準備・プレゼンテーション • 発表準備・プレゼンテーション	
12		• Do you prefer city life or life in the countryside?	• 発表準備・プレゼンテーション	
※進度などによりトピック等は 変更することあり				
3				

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	英検対策	進学	2	井原
教科書	なし				
副教材	英検2級 二次試験・面接完全予想問題（旺文社） 英検2級 ライティング問題 英検合格のための要約問題予想問題集（Gakken）				
授業のねらい	英検対策の中でも英作文（W:ライティング）と二次面接対策（S:スピーキング）に重点を置くことで、そのコツを集中的に学び、合格をめざす。 ・ライティング 構造の型、表現の型を身につける。様々なトピックについて作文練習をし、添削を受けて、改善するというサイクルで学ぶ。また今回から加わる要約問題についても学ぶ。 ・二次面接対策（スピーキング） 評価基準を知り、各問に対する応答の仕方を繰り返し練習する。様々なパターンの練習をすることで過度に緊張することなく面接に臨める姿勢とスキルを身につける。				
授業の進め方の概要と	2時間連続の授業を以下の流れで進める。 1時間目 ライティング 2時間目 二次面接対策				
テスト・授業姿勢	・授業内テストを行う 1学期 中間考査・期末考査 2学期 中間考査・期末考査 ・授業姿勢 ワーク等の提出、ペアワークへの取り組みなどを総合的に評価する。				
図書資料の活用	都度、参考図書等があれば紹介する。				

学期	月	教材	内容
1	4	ガイダンス 演習 W:例題、要約01,02、 Chap2 U1,2	
	5	S:Day1,2,3	
		中間考査	
	6	W:要約03,04、Chap2 U3,4 S: Day 4,5	
2	7	期末考査	
	9	W:要約05,06、 Chap2 U5,test1 S:Day6,7	
	10	W:要約07,08、test2 S:Day8 中間考査	
3	11	W:要約09,10、test3 S:Day9,10	
	12	期末考査	

2025年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	外国語 (英語)	Intermediate English	進学文理	2	田代
教科書	なし				
副教材	英語長文読解 プラクシス Level 2 Stellar 4 英文法短期集中演習15回				
授業の狙い	大学受験（標準）レベルの英語力を身につけるために、文法・語彙・読解等の総合問題演習を行う。				
授業の進め方概要と	2時間続きであるため、基本的には以下のように進める。 【1時間目（長文）】プラクシス 問題を解き、解説 【2時間目（文法）】Stellar 4 問題を解き、解説				
テスト	・授業内テストを行う 1学期 中間考査・期末考査 2学期 中間考査・期末考査				
評価	各学期、100点満点で表記する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	プラクシス Stellar 4	1-1～1-4 Lesson1～3
	5	プラクシス Stellar 4 授業内テスト	1-5～1-7 Lesson4～6
	6	プラクシス Stellar 4	2-1～2-3 Lesson7～9
	7	授業内テスト	
		全18時間	
2	9	プラクシス Stellar 4	2-4～2-7 Lesson10～11
	10	プラクシス Stellar 4 授業内テスト	3-1～3-3 Lesson12～13
	11	プラクシス Stellar 4 授業内テスト	3-4～3-6 Lesson14～15
		全20時間	

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	進路別	国語表現	進学	2	岩野
教科書					
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能				
	観点② 思考力・判断力・表現力				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	文章力、論理的思考力、自己発信力を培うことを目的とする。 具体的に学ぶのは、自己紹介の効果的な方法、小論文の「型」を学び作成することや討論の方法、プレゼンテーションの方法などである。				
図書資料の活用	適宜、授業中に紹介する				

学期	月	教材	内容
1	4	(1)ガイダンス 自己紹介のしかた	
	5	(2)原稿用紙の使い方 話し言葉と書き言葉	
	6	(3)論理的な表現とは何か 賛成・反対とその論拠	
	7	(4)インタビューとは (5)志望理由書とは	
2	9	(6)本の紹介 ビブリオバトル	
	10	(7)ディベートとは	
	11	(8)ディベートの下調べ (9)ディベートの実践	
	12	(10)成人の主張	
3			

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	進路別数学α	進学理系α	2	平田
教科書	教科書・問題集				
副教材	自身の問題集を持参のこと				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書における例題・練習問題を確実に解けるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 教科書における応用例題・章末問題を解けるようにする。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業内演習における取組を評価対象とする。				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	スクールタクトによる演習を行う。各個人にアドバイスをを行い、ひとまずは高校数学の教科書問題を一周することを最低限の目標とする。その上で上位学校で困らないような学力を身に着けるべく授業を行う。				
図書資料の活用	以下の書籍に関連事項が書いてありますので、興味関心のある生徒は触れてみてください。 容疑者Xの献身・東野圭吾 フェルマーの鸚鵡はしゃべらない・ドゥニ ゲジ				

学期	月	教材	内容
1		スクールタクト	数学Ⅰ AⅡ BⅢ C 基本
2		スクールタクト	数学Ⅰ AⅡ BⅢ C 応用
3			

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	進路別数学	進学	2	花澤
教科書	適宜プリントを用意する				
副教材	数IAIIの教科書				
評価基準	観点① 知識・技能 1,2年次に授業で学習した事項を思い出し、適切なタイミングで利用できる				
	観点② 思考力・判断力・表現力 観点①に挙げたような事項を利用して、より複雑な問題を解くことができる。①に挙げたような事項に基づく原理を理解することができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 周囲の生徒と話し合いながら知識を思い出し、問題を解こうとする態度				
	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。 各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	タイトルは「利用する数学」となっていますが、これは単に「その知識が成り立つことはとりあえず認めて、様々な現象に見境なく適用していく」ことを意味しません。原理まで踏まえたうえで、ある現象にその知識を適用するか否かを正しく判断できることまで含めて「利用」です。適宜原理まで遡って、数学を厳密に理解し、厳格に利用しましょう。				
図書資料の活用					

学期	月	教材	内容
1		プリント	数IAIIの教科書レベルの問題演習 適宜応用問題を扱う
2		プリント	数IAIIの知識を利用した応用問題を解く
3			

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	進路別物理	進学理系	2	榎本
教科書	物理基礎（物基703）実教出版 物理（物理702）実教出版				
副教材	新課程 フォローアップドリル物理基礎 ①運動 ②仕事・熱 ③波・電気 新課程 フォローアップドリル物理 ①力学・熱				
評価基準	観点① 知識・技能 單元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解できる。 公式を使って、基本的な問題を解き、物理量を求めることができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 実験等によって得られた情報を整理・分析し、法則性や関係する物理量を求めることができる。また、得られた知識を使って応用的な課題を解決できる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業や課題に真剣に取り組む、知識や思考力等の成長のために努力できる。 また、学習した内容と日常生活との関わりなどについて調べたり考えることができる。				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計5回実施 ※ 授業内で実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	物理を選択した人は、基本的には大学受験科目として物理を選択するであろうということを前提として、大学進学に向けて必要な最低限度の知識と技法を身につけることを目標として授業を行います。ただし、ただ問題の解法を教える授業ではありません。物理は一見たくさんの内容が詰まっているように感じられますが、それらは実は非常に少ないいくつかの原理の組み合わせから成っています。そのような物理の「本質」を発見させる授業を心がけます。そのために実験や演示を行いますので、それを通じて、「なぜ」と考えながら授業を受けて下さい。				
図書資料の活用	学期ごとのレポート等に、図書室を活用する。				

学期	月	教材	内容
1	4	フォローアップドリル 補助として教科書	4月～5月中旬は「物理基礎①運動」について学習する。5月下旬～6月は「物理基礎②仕事・熱」について学習する。
	5		
	6		
2	9	フォローアップドリル 補助として教科書	9月～10月中旬は「物理基礎③波・電気」について学習する。10月下旬～11月は「物理①力学・熱」について学習する。
	10		
	11		
3			

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	生物	進学	2	岡田
教科書	「生物基礎」 第一学習社				
副教材	「スクエア最新図説生物」 第一学習社				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書および図説の内容の十分な理解を目指す。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 内容の理解を目指す過程で、授業者どうして学び合うシーンを多く取り入れる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 学び方に関するサマリーを作成する。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 用語の意味を問うような、単純な知識問題が大部分となる。				
	観点② 文脈を正しく読み解く必要があるような、考察を要する問題が大部分となる。				
	観点③ サマリーの内容を元に判断する。				
授業のねらい・進め方・注意点	学習者...学習項目の理解にどれほど自分自身の思考を巡らせたか？に注目する。 授業者...学習者の思考がより深いものになるように注力する。				
図書資料の活用					

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 図説	①4月～5月中旬は「第1章生物の特徴」について学習する。5月下旬～6月は「第2章遺伝子とその働き」について学習する。 ②学習方法は、学習者どうして学び合いを通じ内容の理解を進める...というものとする。 ③授業者が実力テストを実施する。この成績に対して、学習者は、学び方について反省し、後日の自主学習の計画を練る。
	5		
	6		
2	7	教科書 図説	①9月～10月中旬は「第3章ヒトのからだの調節」について学習する。10月下旬～11月は「第4章植生と遷移」「第5章生態系とその保全」について学習する。 ②学習方法は、学習者どうして学び合いを通じ内容の理解を進める...というものとする。 ③授業者が実力テストを実施する。この成績に対して、学習者は、学び方について反省し、後日の自主学習の計画を練る。
	9		
	10		
3	11	教科書 図説	
	12		
3			

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	理解を深める現代文	進学文系	2	平山
教科書	文学国語の教科書（数研出版）、論理国語の教科書（数研出版）その他、適宜指示する。				
副教材	適宜、使用教材は指示する。				
評価基準	観点① 知識・技能 漢字の書き取り・読み取り、語句の知識が身についていること。 同値・言い換えや逆接などの文の構造を正しく理解できること。 作者名・成立年代・時代背景等の文学史的知識が身についていること。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 読解力を養い、文脈や筆者の伝えたいこと（作品テーマ）を的確に捉え、記述したり口頭で表現できること。 登場人物の心情を正しく読み取り、本文内容を理解すること。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ノートの内容に工夫があり、ワーク等の提出物をしっかりと管理し、グループワークやペアワークに積極的に参加すること。また、読書に対する意欲を持つこと。				
考査・評価方法	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
	各学期、100点満点で表記する。 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 観点③：ノート提出（5点）、ワーク等提出物（5点）授業姿勢（ペアワーク等の姿勢も含む）（5点）、読書活動（5点）				
授業のねらい・進め方・学習アドバイス	・3つの観点を重視し、国語力を養っていくことを主眼とする。 ・教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や常識を深めていく。 ・ペアワークやグループワークを積極的に行う。 ・授業冒頭の5分は読書を行う。				
図書資料の活用	適宜授業内で紹介する。				

学期	月	教材	内容
1	4	論理国語教科書 「〈近代〉の入口とで出口の間」を読解する。	様々な現代文の文章の理解を深める。
	5	中間考査	
	6	文学国語教科書 「無用の人」を読解する。	
	7	期末考査	
2	9	論理国語教科書 「日本語は非論理的か」を読解する。	様々な現代文の文章の理解を深める。
	10	中間考査	
	11		
	12	文学国語教科書 「藤野先生」を読解する。 期末考査	
3			

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	芸術	応用芸術（音楽）	進学	2	溝口 佳洋
教科書	なし				
副教材	なし				
評価基準	観点① 知識・技能				
	【知識】 ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。				
	【技能】 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。（歌唱） ・他者との調和を意識して演奏する技能を身に付けている。（器楽） ・反復、変化などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付けている。（創作）				
	観点② 思考力・判断力・表現力				
評価	観点③ 主体的に学習に取り組む態度				
	・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚している。 ・それらの働きを感じながら、知覚した事と感受したこととの関わりについて考えている。 ・どのように表すかについて表現意図をもっている。 ・音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聞いたりしている。				
	観点① 50% 観点② 20% 観点③ 30%				
	観点① ・実技テスト（25点） ・レポート課題（25点） ※内訳は学期によって変動する可能性あり				
テスト・評価の内訳	観点② ・振り返りシート（10点） ・鑑賞シート（10点） ※内訳は学期によって変動する可能性あり				
	観点③ ・授業態度や他者との協働（15点） ・自己評価シート等（15点） ※内訳は学期によって変動する可能性あり				
	授業のねらい・進め方・注意点				
図書資料の活用	学期ごとに出すレポート課題の作成で、図書室の資料を活用する。				

学期	月	教材	内容
1	4	Music Note	楽典 音名速読 「音程」 「コードネーム」
	5	教科書・プリント	グループ 曲決め・パート決め
	6		譜読み
	7		個人練習・合わせ練習
2	9	教科書・プリント	発表 レポート提出
	10		全体合奏 曲決め・パート決め 譜読み 個人練習・合わせ練習
	11		レコーディング
			全体合奏 曲決め・パート決め 譜読み 個人練習・合わせ練習
※上記の内容は履修したメンバーの進路状況によって変更される場合もあります。			

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	芸術科	書道Ⅲ	2		佐藤敦子
教科書	書道Ⅲ・光村図書				
副教材	自主教材				
評価基準	観点① 知識・技能 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 主体的に書の幅広い活動に取り組み、主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				
	各学期、100点満点で表記する。 (3観点の比率と算出法) 観点①50% 観点②20% 観点③30%				
	観点① 作品評価40点 鑑賞文 書道史学習 書風の比較 10点				
テスト・評価の内訳	観点② レポート等 10点 観点の書き込み 工夫 及びグループ学習 10点				
	観点③ 課題提出状況 10点 授業態度（作品レベル向上、グループ学習への取り組み）15点 自己評価5点				
授業のねらい・進め方・注意点	・素直に柔軟に自分の身に取り入れるつもりで学習し、充実した時間にする。 ・書道学科授業見学、書跡鑑賞会（博物館見学）を実施する。 ・作品制作の雰囲気作りに心がける。 ・文化祭への出品。 ・大東文化大学主催全国書道展への出品。				
図書資料の活用	レポート、プレゼン課題等に参考文献として図書室にある書籍を活用する。				

学期	月	教材	内容
1	4	プリント 教科書p6～	オリエンテーション 篆書の学習
	5	教科書p10～	隷書の学習 礼記碑 鄧石如
	6	教科書p14～ 半紙創作 手本を選ぶ	半切臨書作品 レポート課題 プレゼンテーション
	9	教科書p50～	漢字仮名交じりの書
2	10	教科書p30～ 教科書p58～	仮名の学習 書風の比較 篆刻の学習
	11	半切創作	相互評価 プレゼンテーション レポート課題
3			

2025年

学年	教科	科目	単位	担当者
3	地歴公民	政治経済	2	芳野
授業のねらい	現代社会における諸問題について、自ら調べ探究を進めることによって、主体的に生きる力を養うとともに、主権者としての自覚を深める。 大学入試に向けての対策も行う。			
授業の方 法の概要と進	大学入試に向けて必要な基礎知識を深める。 大学入試の過去問を解く。 各自で関心のある現代社会の諸問題について研究発表を行う。			
学習上の留意点	受け身でなく、主体的に授業に取り組むこと 社会の諸問題に対して興味関心を持つこと			
テスト	授業内テストを行う。 課題のへの取り組みや内容等を総合的に判断する。			
教科書	詳述 政治経済			
副教材等	授業内で配布するプリント			
図書資料の活用	研究発表の調査で図書室を活用			

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4月	入試過去問対策 課題研究	大学入試問題の解答 自ら設定したテーマの考察と発表
	5月		
	6月		
2	9月	入試過去問対策 課題研究	大学入試問題の解答
	10月		
	11月		
3			